

AOI通信

静岡音楽館AOI倶楽部情報誌
MARCH 2015 No.77

春号

20th
anniversary

静岡音楽館AOI
開館20周年に寄せて

間宮芳生 オペラ《ポポイ》

コンサートレポート
篠崎史子・篠崎和子
華麗なるハープの世界





静岡音楽館AOIが開館20周年を迎えた。これもひとえに地元静岡の皆様とすべての音楽を愛する方々の支えによるものに他ならない。心から感謝を申し上げたい。

音楽家としての私の人生の中で、あらゆる面でこれほど密接に関わったホールはない。これは私の師匠、間宮芳生先生の導きである。開館2年前まだホールが建つ前、間宮初代芸術監督に連れられて、駅前の一等地に穴がぽっかりと空いて、その底でヘルメットをかぶった無数の人が働いているところを見た光景は未だに鮮明に甦ってくる。パリの空港で間宮先生の電話を受け「学芸員を募集したいのだけれど、フランス語で受ける人のために大至急何か問題を考えて」と頼まれて、すぐにキオスク(売店)に走って音楽雑誌を買い、ちょうどその時に開館したてだったバ스티ーユ国立歌劇場の音響レポートを仏文和訳の問題にと提案したことは、つい昨日のことのようだ。開館してからは、企画会議委員を10年、芸術監督を10年務めてきた。そして演奏家、作曲家としてここで踏んだ数々の舞台、さまざまな催しの経験が今日の音楽家としての私を形作っている。またここで見たり聴いたりした世界の音楽家、日本の音楽家から受けた影響も計り知れない。音楽家はホールに育てられるわけだが、その意味で静岡音楽館はあらゆる音楽家の「母」であり最良の「教師」であり続けていると思う。

グローバル化が叫ばれている今日、静岡音楽館はそのほるか以前から間宮初代監督の指導のもとインターナショナルな視点を導入してきた。その意志を受け継ぎつつ、また異なった視点も取り入れながらここ10年間のプログラムを熟考し、首都東京以外の土地から発信する一つの音楽ホールのあり方を世に問うてきた。この実行にあたっては、その時々館長以下優れたスタッフのサポートも忘れることができない。これからも世界に目を向けると同時に静岡という地を生かしたホールであるように、さまざまな方々のご意見に耳を開きながら音楽面のさらなる充実を図って行けたらと考えている。

野平一郎
(作曲家、ピアニスト、静岡音楽館AOI第2代芸術監督)



静岡音楽館AOI 開館20周年に 寄 せ て

静岡音楽館AOIが創立20年の節目を迎え、単にコンサートホールとしての施設であるにとどまらず、その場においての創造的な企画内容の活動を持続的に行ってきたことは語るに足ることだと信じます。私が芸術監督をつとめた創立からの10年間から、ひとつ象徴的な例を挙げれば、チェリスト、ヨーヨー・マを迎えて、若いすぐれた日本の作曲家、原田敬子氏への委嘱新作を含む独自のプログラムによるコンサートが、ヨーヨー・マの大ファンだった高円宮様をお迎えして開かれたこと、また、日本ではもとより、むしろ本場アメリカでの評価が高いジャズ・ピアニスト、秋吉敏子、山下洋輔、佐藤允彦の三人のリレー・コンサートを一日で長時間かけて行ったことなどがありました。そして私のあとを引き継いだ現芸術監督、野平一郎氏が、長いヨーロッパでの作曲家と抜群のピアニストとしての腕、そして多くの芸術家達との人脈によって、さらに魅力的な企画の数々を実現してきていることも、特筆すべきことです。今後も、さらに世界から注視を集める芸術発信の基として発展することを念じ、また信じ、心からお祝いを申し上げます。

間宮芳生
(作曲家、静岡音楽館AOI初代館長・初代芸術監督)



20周年おめでとうございます。

AOIでは、「100曲リクエスト・コンサート」、コック姿で歌った「おいしい歌はいかが」などの演奏会だけでなく、《コシ・ファン・トゥッテ》《椿姫》《カルメン》などのオペラ抜粋公演も実現して頂きました。オペラ公演では、構成、演出、出演まで楽しませて貰えましたが、市内のアンティーク家具屋で、舞台装置としての家具を選ばせて頂いたことも、懐かしく思い出されます。今は、企画の立場から退きましたが、若い企画者の参加により、次の成熟した20年となることを願っています。

池田直樹(バス・バリトン)



AOIは、本当にすてきなホールです。間宮芳生、野平一郎という2代の音楽監督のもと、すばらしい企画を実施してきました。何度かお世話になった僕も、ここには特別な思い出があります。登呂遺跡や家康…長い歴史に刻まれ、そして今や政令指定都市として発展する静岡市が、文化的にも第一級の町であることの証しとして、欠かせない存在のひとつがAOIです。開館20周年を機に、これからもますます鮮やかな展開を、示してください!

池辺晋一郎(作曲家)



開館二十周年に、心からのお祝いを捧げます。

私も何度も演奏いたしました、その度にホール全体を包み込む、演奏者と聴き手の一体感に、全国にも稀なホール、と感銘を受けたものでした。それに、スタッフの皆さんの爽やかさも、心に深く残っております。

静岡の音楽文化の成熟と未来のためにも、これからのますますのご発展を、心からお祈りいたします。

中村紘子(ピアニスト)



©Hiroshi Takaoka

開館20周年おめでとうございます☆

6年前に初めてホールに伺った際、敬愛する野平さんの気品あるピアノと柔らかなホールの響きに包まれ、あたたかなお客さまと共に、とても幸せな時間を過ごさせていただいたことを、昨日のことにように憶えております。

常に世界トップレベルの新しい音楽の形を発信しつづけている静岡音楽館AOI。

またいつか伺いする日を心待ちにしつつ、音楽館の益々のご発展をお祈り申し上げます。

幸田浩子(ソプラノ)



静岡音楽館AOI開館20周年、誠にありがとうございます!

AOIでは、モーツァルトのオペラやバッハの受難曲、そしてギターとの室内楽など、多くの演奏会に出演させていただきました。そして、本年11月にはオペラアリアを中心としたリサイタルを開催させていただくことになり、大変嬉しく思っております。

今後もこの素晴らしい音響空間に、さまざまなジャンルの胸躍るような音楽が奏でられていく事を、切に願っております。

望月哲也(テノール)



《ポポイ》は、 倉橋由美子さんの 同名の小説。

間宮芳生 (作曲家、静岡音楽館AOI初代館長・初代芸術監督)

元総理大臣の老人の自宅の部屋を襲って何か要求を突きつけた2人の若いテロリスト達が、要求を拒絶されると、唐突に元総理の眼前で若い方(多分10代)が割腹、もう1人30歳ばかりの方が日本刀でその首をはね、みずからもその刀でのどを突いて死んだ……と報じられたが、その若い方の男の生首は、ただちに人工血液供給装置につながれ……小説によると、高さ1メートルほどの台に安置された頭部の彫刻のようにのせられて……どう見てもルームサービスで特別の料理を運んでくるのを連想させた。小説では、元総理の孫娘「舞」が、その生首の世話をまかされる、という風に進む。元総理の老人、舞の祖父は、その夜、脳梗塞で倒れ、まったく口がきけない状態になったため、テロリストたちがつきつけ拒否された要求の中身も永久に謎になった。

というこのストーリーを舞台上で演じられるオペラにするのはかなり無理なのだが、僕にとって、この作品が1987年にラジオ・ドラマとして放送された時、そのための音楽を担当した時に始まっており、確かにそれは音だけのラジオにはふさわしい内容で、ポポイも老人も言葉を発することがなくても、面白いドラマになる。

はたして小説が先にあって、それをドラマの台本に圧縮したものか、小説の出版も1987年なので、もはやはっきりしない。僕がオペラ《ポポイ》を考えはじめて、その辺のことを倉橋さんに話そうかと考える前に、倉橋さんは亡くなられてしまった。しかし、どんなにむずかしくても、オペラ《ポポイ》を形にすることは、僕にとってとても誘惑的な命題になってしまった。

オペラとなると、「ポポイ」も元総理の老人も声を出す「うた」がほしくなり、舞とポポイ、舞と老人との対話、いわばイメージーションの会話が成立するよう、空想的な声が成立するよう、「ポポ



間宮芳生:オペラ《ポポイ》
2009年6月28日 世界初演 演出:田中泯
撮影:日置真光

イ」の声には古楽畑のカウンターテナーの声(倉橋さんと同じ高知出身の)上杉清仁さん、老人の声は能役者、シテ方の清水寛二さんに演じてもらうことになった。ところで主役の生首が何故「ポポイ」という名なのか、それは今説明せず、オペラを見ていただくということにしたい。全編ほとんどどうたいっぱなしの「舞」役は、ソプラノ、事実上、オペラの支配役である。

初演は2009年6月、静岡音楽館AOIで、ステージの半分が器楽アンサンブル、半分が演技空間、第1幕と第2幕で、器楽と演技空間の左右が入れかわるという演出は、ダンサーとしてとてもユニークな仕事で知られる田中泯氏、指揮は僕自身で行われた。今度の再演は同じAOIで、指揮は初演の時のピアニスト、寺嶋陸也さん、演出はAOIと関係浅からぬ、SPAC・静岡県舞台芸術センターの芸術総監督、演出家の宮城聡氏におねがいすることになった。そして、歌手などのキャストはすべて2009年の初演の方々と同じで、上演日もまた、6年前と同じ6月28日である。

オペラ 《ポポイ》



6/28 (日) 15:00 開演 (14:15 開場)
ふじのくににぎせかい演劇祭2015 連携プログラム
ブラヴォー・アンコール!
間宮芳生の声! オペラ《ポポイ》
全指定¥5,000 (会員¥4,500、22歳以下¥1,000) [Pコード=243-841]
～14:30より、作曲家・間宮芳生と指揮者・寺嶋陸也による
プレ・コンサートトーク～(本公演のチケットが必要です)

原作 倉橋由美子
演出 宮城聡 (SPAC・静岡県舞台芸術センター芸術総監督、静岡音楽館AOI市民会議委員)
出演 寺嶋陸也 (指揮)、舞／吉川真澄 (ソプラノ)、ポポイ／上杉清仁 (カウンターテナー)、
聡子／波多野睦美 (メゾソプラノ)、佐伯／大槻孝志 (テノール)、
剛・記者／河野克典 (バリトン)、入江晃／清水寛二 (能楽師)、劇団SPAC
東京シンフォニエッタ
曲目 間宮芳生:オペラ《ポポイ》(2009年度静岡音楽館AOI委嘱作品)



オペラ《ポポイ》、 ふたたび。

小林旬 (元 静岡音楽館AOI学芸員)

2015年6月28日、オペラ《ポポイ》が再演される。2009年に静岡音楽館AOIの委嘱により初演されたオペラである。秘かのぞにずっとそれを希みながらも、ほんとうに実現することになるとは思ってもいなかった。新しいオペラが創られるのはめずらしいことではないが、じつはそのひとつひとつがけこうたいへんなことである。ましてやAOIは室内楽のためのさほど大きくはないホールなので、そこで新しいオペラを創ろうというのはちょっと規格外なことだったし、なによりこのオペラは間宮芳生の作品である。彼は、日本の現代音楽の^{あまた}数多の作曲家のなかで独自の位置にあるだけでなく、AOIの初代芸術監督として静岡の音楽の発展に大きく貢献した作曲家。AOIのこれまでの歴史のなかでオペラ《ポポイ》はひときわ記念碑的な作品であり、AOIの開館20周年にあたって《ポポイ》を再演しようというのは当然のことだろう。

原作は倉橋由美子。石原慎太郎、開高健、大江健三郎らとともに戦後文学の新旗手とみられ、エレガントにしてグロテスク、その食欲な知性と奇想の感覚で独特の世界をきり拓いた。2005年に69歳で亡くなったが、いまでも熱狂的なファンは多い。《ポポイ》は初め、1987年にラジオ・ドラマとして書かれ、間宮芳生はその音楽を担当して以来ずっと、これをオペラにしたいと20年以上もその構想を温めてきた。そして自身で脚本を執筆し、初演だけでなくリハーサルも自ら指揮した、まさに渾身の作品である。

その20年のあいだ、1997年に作曲されたピアノ協奏曲第4番には《いまだ書かれざるオペラの情景》とのタイトルが附された。「いまだ書かれざるオペラ」とはもちろん《ポポイ》のことだ。この協奏曲は、激烈なシーンを描く第1楽章〈血書〉、ピアノとバス・クラリネットの対話である第2楽章〈ダイアログ〉、象徴的な第3楽章〈眼、または謎〉を経て、静かな死の第4楽章〈埋葬〉(葬送の音楽なのにワルツのリズム)の4つの楽章からなる。ラジオ・ドラマの音楽はいったんこのピアノ協奏曲に凝縮され、音楽的な強度が高められてオペラに昇華する。じつは、自分の体験としては、ラジオ・ドラマはあとになってから録音を聴いたので、ピアノ協奏曲の初演を聴いたときのことを憶いおこすと、その、テンションの^{みなぎ}漲った音楽に、「いまだ書かれざるオペラ」とはいったいどんな構想なのだろうかと想像を膨らませていた。そしてそれが倉橋由美子の『ポポイ』だと識り、たしかにこのピアノ協奏曲には倉橋由美子の世界から漂う毒気が充溢していて、生々しかった。

さらに個人的なことだけれど、オペラ《ポポイ》の初演にあたって、私は2人のスタッフと制作にあたりながら、演出助手と舞台監督を務めた。演出は前衛で踊り続けるダンサー、田中泯。演出助手は私だけでなく、田中泯に師事して自らも優れたダンサーである石原淋との共同だったこともあってなんとなかったようなもので、ふつう、そんな兼任は非常識なくらいありえない。それだけにこのオペラにどっぷり浸かった数ヶ月を過ごしたので、5年以上経ったいまでもなかなか客観的になれない。

間宮芳生に師事した作曲家、吉川和夫も初演後、「感動した。けれど、何がその感動を呼び起こしたのか、説明するのは容易ではない」と率直な感想を漏らし、「まず第一に言葉が非常に明瞭」(河合代悟)、「脚本も音楽もクール。透明度の高い響き」(白石美雪)、「自在に変化して不安や喜びを響かせる音は、驚くほど豊かで格調高い」(大野由紀夫)、「本当に不思議な世界に誘い込まれたような、異色の雰囲気」(関根礼子)などの絶賛を集めたオペラ《ポポイ》。いよいよ迫るその再演に胸の^{たか}昂まりを感じるのは私だけではないだろう。強い個性で、音楽に、より重層的な魅力を与えた初演のキャストが再び結集、さらに今回の演出は、独特の手法で世界にその存在感を示すSPAC・静岡県舞台芸術センター芸術総監督、宮城聡。これを観逃すことはできない。

コンサートシリーズ2015-16
第1期 おすすめポイント

5/14から始まるコンサートシリーズ2015-16の第1期。

オペラ《ボボイ》のほかにもいくつもコンサートを
ご用意してお待ちしています。5/14(木) 19:00 開演 (18:30 開場)
オーケストラを聴こうレイフ・オヴェ・アンスネス(指揮、ピアノ)
マーラー・チェンバー・オーケストラ

全指定¥6,000

(会員¥5,400、22歳以下¥1,000)

アンスネスがAOIの舞台に帰ってきます。今回聴かせてくれるのは、マーラー・チェンバー・オーケストラとの共演で、ベートーヴェンのピアノ協奏曲を3曲。しかもアンスネス自らの弾き振りで、今年度のコンサート・シリーズの開幕にふさわしい、贅沢な一夜となること間違いなし。



© Sonja Werner

6/6(土) 15:00 開演 (14:30 開場)

子どものためのコンサート

小曽根真

子どものためのジャズ・ライブ

全指定¥3,000(会員¥2,700、22歳以下¥1,000) 親子券¥3,500

日本が世界に誇るジャズ・ピアニスト 小曽根真。情熱的な演奏とトークにどうぞ期待ください。どんな曲が聴けるかは当日までのお楽しみ。



© Yow Kobayashi

7/25(土) 15:00 開演 (14:30 開場)

ブラジル音楽の世界

～アントニオ・カルロス・ジョビンとその周辺～

全指定¥4,000(会員¥3,600、22歳以下¥1,000)

ボサノヴァの巨匠、アントニオ・カルロス・ジョビンは2014年12月に没後20年を迎えました。このコンサートではジョビンを中心に、ブラジル音楽を紹介します。暑い夏をブラジル音楽で乗り切りましょう。



8/9(日) 12:00 開演 (11:30 開場)

第5回 アマチュア・アンサンブルの日♪

入場無料(申込不要)

2011年度より始まった「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、今回で5回目を数えるまでになりました。おかげさまで、年々、ファンの方も増えています。さっと今年も心待ちにしてください。方々が大勢いることでしょう。これまでより早い8月の開催ですが、暑さに負けない、すばらしい演奏が披露されることと思います。みんなAOIに集まれ!

出演者決定!

第5回 アマチュア・アンサンブルの日♪

8月9日(日) 12:00開演 (11:30開場) ※18:30終演予定

入場無料 ※このコンサートは未就学児もご入場いただけます。

今年で5回目を迎えるアマチュア・アンサンブルの日♪。

今回も多くのご応募がありました。

2/6(金)の締切後、抽選の結果、出演する24組が決定しました。

第1部 美しき邦楽器・弦楽器の音色

ナランハ(シの笛、ピアノ)

いずみたく:見上げてごらん夜の星を
田村虎蔵:青葉の笛
町田嘉章:ちやっせり節

Alumni(アラムナイ)(ヴァイオリン、ピアノ)

J.ブラームス:ヴァイオリン・ソナタ第1番《雨の歌》ト長調 op.78 より 第1楽章
C.シューマン:ヴァイオリンとピアノのための3つのロマンス op.22 より 第1番

アンサンブル・ヴァン・ルージュ

(ヴァイオリン、チェロ、フルート、ピアノ)

W.A.モーツァルト:交響曲第41番《ジュピター》ハ長調 K.551 より 第1、4楽章

トリオ MMO(ヴァイオリン、ヴィオラ、フルート)

L.v.ベートーヴェン:セレナーデ ニ長調 op.25

アンサンぶる静岡

(フルート、ヴィオラ、チェロ、ギター)

C.P.E.バッハ:四重奏曲 ニ長調 H.538 より 第1、第2楽章

Ferny(ファーニイ)(ヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、フルート)

C.P.E.バッハ:ディヴェルティメント ト長調 H.642

島田ギターアンサンブル

さだまさし:秋桜

G.アララン & B.ウィントン:ミスター・ロンリーのデュエット

J.J.パッヘル:バレル:カノン

ころりん(筆、十七箏)

江戸信吾:証城寺のスケルトン

ラリレロ(弦楽合奏)

J.S.バッハ:ブランデンブルク協奏曲第5番

ニ長調 BWV1050 より 第1楽章

ギターアンサンブル

「サウンド・オブ・ドリーム」

W.A.モーツァルト:セレナーデ 第13番 ト長調

《アイネ・クライネ・ナハトムジーク》

K.525 より 第1、2楽章

J.シュトラウス I 世:ラデツキー行進曲 op.228

ムジカ・ブリューメ(弦楽合奏)

A.ヴィヴァルディ:2つのヴァイオリンと

チェロのための協奏曲

ニ短調 op.3-11 RV565

第2部 管楽器の輝き

清水ウィンドオーケストラサクソフォンアンサンブル

J.-B.サンジュレ:サクソフォン四重奏曲第1番 op.53

アンサンブル「とろ」(トロンボーン)

F.ペーテルス:4本のトロンボーンのための組曲

H.フィリモア:《トロンボーン・ファミリー》より

《シャウティン・ライザ・トロンボーン》

Ensemble ELE“FUN”TS(金管五重奏)

広瀬勇人:コッツウォルズの風景

小田裕一郎、財津和夫:SEIKO chan 夏

青い珊瑚礁 ～白いパラソル～ 夏の扉

Brass Ensemble La Mer(金管五重奏)

R.ロブリー:《アメリカン・イメージ》より

《アーリー・デイズ》(ブルース)《フェスタ》

ハルモニア クインテット(木管五重奏)

M.ラヴェル:組曲《クーブランの墓》より

(プレリュード)《メヌエット》(リゴードン)

静岡県トロンボーン協会

P.ファレーズ:《ルネサンス舞曲》より《ガリアード》

M.プレトリウス:《3つの舞曲》より《バリエ》

A.ブルックナー:《エクアール WBA149

タントウム・エルゴ WBA43

アヴェ・マリア WBA6

V.E.ベッカー:行進曲

第3部 映画・バレエ・オペラ音楽の世界

アニロ・グランデ(ギター、オカリナ)

W.A.モーツァルト:ホルン協奏曲第4番 変ホ長調 K.495 より 第3楽章

オペラ《魔笛》K.620 より(私は鳥刺し)

J.ブラームス:ワルツ第15番 変イ長調 op.39

C.コンヴァース:讃美歌第312番《いつくしみ深き》

アンジェリカ(エンジェル・ハープ)

岡野貞一:故郷

J.S.バッハ:無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第3番 ホ長調 BWV1006 より

第3曲 カヴォット・アン・ロンド

P.I.チャイコフスキー:バレエ《くるみ割り人形》op.71 より

(序曲)《花のワルツ》(終曲)

水落セッション(フルート、ピアノ)

A.メンケン:映画《アラジン》より《ホール・ニュー・ワールド》

映画《美女と野獣》より《美女と野獣》

amici(アミーチ)

(サクソフォーン、パーカッション、ピアノ、ヴォーカル)

G.キングスレイ:《バック・ホウダウ》(東京デイズニールランド

エレクトリカル・レードのテーマ)

R.ニューマン:映画《イ・ストリー2》より

(ホエン・シー・ラブド・ミー)

A.メンケン:映画《リトル・マーメイド》より《アンダー・ザ・シー》

E.ジョン:映画《ライオン・キング》より《サークル・オブ・ライフ》

トロンボーン・アンサンブル・セルジア

A.シルヴェストリ:映画《バック・トゥ・ザ・フューチャー》メドレー

スコットランド民謡《アメイジング・グレイス》(J.ニュートン 編)

C.ヘーゼル:《猫の組曲》より《クレーケン》

J.アグレレ:《ゴスペル・タイム

ブラスアンダンテ静岡

(トランペット、ホルン、トロンボーン、チューバ)

A.コーブランド:バレエ組曲《アバチアの春》より

(シンブル・ギフト)

E.エルガー:《エンクマ奏奏曲》より

(ニムロッド) op.36-9

Saxophone Ensemble PICO

G.ガーシュウィン:3つのガーシュウィンズ・ソングス

(The Babbitt And The Bromide)

(The Man I Love)

(I Got Rhythm)

A.ピアソラ:デカリシモ

CONCERT REPORT コンサートレポート

ランチタイム・コンサート

篠崎史子・篠崎和子
華麗なるハープの世界

2015年1月22日 静岡音楽館AOI

この20年ほど日本のハープ界を見ていて、最大の貢献を果たして来た奏者は誰かといえばそれは疑いなく篠崎史子ではないか。演奏家として、日本人作曲家たちへの委嘱作品を中心とした「ハープの個展」シリーズは12回を数え、地味ながら独特な世界を創り上げている。また教育者としても娘のライバルになりうるような優れた若手を数多く育成した。一方、当の娘、和子はトッパンホールやよみうり大手町ホールでのリサイタルにおいても、安易に有名曲の編曲に頼るのではなく、ハープ固有の魅力を有したオリジナル作品にこだわってリサイタルを行っている点で我が国の中堅奏者の中でも傑出した存在だ。私は二人の演奏会は熱心に追いかけていたつもりだが、残念ながら東京では二人のデュオを聴く機会はほとんど無かった(現代作品で1曲だけ聴いた記憶がある)だけにどんなリサイタルになるのかとても楽しみにしていた。ハープの作品事典を調べても、オリジナルの独奏曲は2,000曲を超えるにもかかわらず、二台のためのオリジナル作品は100曲にも満たない。しかも18世紀から19世紀前半の「ハープとフォルテピアノもしくは二台のハープ」のための作品を含めてもこの数しかないのだ。それほどこの編成は特別なもの。では一体どんなプログラム構成になるのか? その点でも興味津々だった。それぞれの独奏が1曲ずつある他は二台のオリジナル曲と編曲ものが演奏された。

さてアンドレスの《パレヴィス》以外の二台用作品では和子がプリモ(第1)を担当していた。一見、主役の座を娘に譲って引き立たせるための配慮のように思われそうだが、そうではないだろう。例えばサルゼド(サルツェード)の3曲に関しては、元々は独奏用に書いた曲に新たに書き加えられたセコンド(第2)のパートは曲の性格変更には大きな意味を持つ。二人とも独奏版は演奏経験もあり良く知っているとしたら、当然のことながらセコンド・パートを担

当する方が責任重大なのではないか。私には、まだまだ主導権は娘に譲ったりしない、という意思表示のように感じられて頼もしかった。

ランチタイム・コンサートのトークというのは初心者を意識するあまり内容の乏しいものになりがちだが、この日は違った。ルニエ編曲によるドビュッシー「アラベスク第1番」での「ハープが良く鳴るように半音低い調に移調されている」、あるいはアンドレス《パレヴィス》において普段とは異なるチューニング・キーを使っていることの説明など、初心者にも判り易い、しかし大変重要な情報を聴衆に与えていた点にもとても好感が持てた。

ピアノにとっては残響過多の静岡音楽館AOIのホールだけに、2台ハープは響きの点で大丈夫だろうか? と心配だった、しかし残響の悪影響を回避できる最前列ではなく後方の席でも比較的明瞭に聴き取ることができた。改めてアンドレスやサルゼドといったハープを熟知した作曲家達が今日の会場の特性なども計算に入れて書いているのだと実感させられた。勿論、優れた二人の奏者だからそうなのは言うまでもないが…。

静岡でのコンサート帰りにいつも寄っていた両替町の料理屋さんを訪ねたら昨年閉店しておりショックを受けた。高度情報化社会でありながら玉石混交の情報が垂れ流される現代においては、食も音楽も良いものを維持することは難しい。どんなに素晴らしい音楽でも、料理でもそれは同じだ。過度に産業化してしまい責任感が希薄なマスコミがまともに機能しない現代だけに、静岡音楽館AOIの発信力にも大いに期待したい。こんな素晴らしいコンサートを企画しているのだから。

谷戸基岩(音楽評論家)



撮影:日置真光

学芸員雑記

開館20周年に思うこと

静岡音楽館AOI 学芸員 関本 淑乃

昨年末、神戸へ旅行する機会があった。阪神・淡路大震災から早20年。いわゆる観光地と呼ばれるところはきれいに復興されて、震災があったことなど忘れてしまいう。実際、神戸へ行くまで、あれから20年もたったなんて思いもしなかった。駅に貼られている追悼式典のポスターを目にして初めて思い当たったくらいだ。もっとも、被害に遭われた方々にとっては私などには想像もつかない大変な20年だっただろうし、まだまだその爪痕が残っているところも多いのだろう。

20年といえば、静岡音楽館AOIはこの5月、開館20周年を迎える。一口に20年といってもさまざまである。私がここで携わっているのはその20年のうちのほんの数年に過ぎないが、年間パンフレットやちらしを眺めているだけでもいろいろなことが思い出される。本番を迎えるまでの苦心の数々も、当日のドキドキも、今となっては懐かしい。そして、自身が携わる以前のちらしを見ては、あんな人が出演していたんだ、こんなコンサートをやっていたんだ、と驚くことしきりだ。聴きたかったなあと思うコンサートがたくさんあった。

せっくなので最近のことを少しだけ記しておきたい。2011年度より開催している

「アマチュア・アンサンブルの日♪」は、AOI、ひいてはクラシック音楽を少しでも身近に感じていただきたと願って始めた事業だ。アマチュアでアンサンブルを楽しんでいる方々にご出演いただくコンサートで、毎回、たくさんのご応募があり、抽選となる。そして、入場無料なのでふらっと立ち寄ってくださるお客様もいらっしゃる。演奏するの

が好きな人にも音楽を聴くのが好きな人にも楽しんでいただけているようで嬉しい。さて、20周年の節目となる今期のコンサートシリーズは、初代芸術監督で、AOIの礎を築いた関宮芳生を特集するほか、オープニングを飾る「オーケストラを聴こうレイフ・オヴェ・アンスネス(指揮、ピアノ) マーラー・チェンバー・オーケストラ」や「子どものためのコンサート 小曽根真 子どものためのジャズ・ライブ」,「J.S.バッハ:ブランデンブルク協奏曲 全曲」など、いつにもまして選りすぐりのラインナップとなった。どのコンサートもぜひ聴いていただきたいものばかりだ。

みなさんの心に残っているコンサートはあるだろうか。これからもみなさんの記憶に残るようなコンサートを、一つでも多くお届けできればと思っている。聴いてくださるお客様と演奏家があつてこそそのAOIなのだから……。

※チケット記載の日付(期間)に限り1回ご利用いただけます。
※チケットを提示されたご本人さまのみ有効です
(店舗によって異なる場合があります)。

路地裏韓居酒屋

韓唐韓ーかんからかんー

静岡駅南口より徒歩3分、路地裏にひっそりと佇む「本場韓国の家庭料理を味わえる」と人気のお店。韓国料理といえば「焼肉」とか「辛い」を思い浮かべる人も多いはず。でも実際のところ、本場韓国の唐辛子は辛みだけでなく甘みのある独特な風味が特徴。さらに肉はもちろん、たっぷりの野菜をつかうのが本場韓国家庭の味。たこ鍋、ブデチゲをはじめ、お鍋の種類も豊富で日本ではまだまだ知られていない本場韓国の一品料理をたっぷり用意！ドリンクもオリジナルフルーツマッコリなど飲みやすい韓国のお酒が多数！一皿の盛りもよく、全体的にリーズナブルな設定なので、食いしん坊でも大満足まちがいなし！仲間とのパーティと宴会はもちろん、会社帰りのちょい飲みにも利用してね♪

TEL.054-284-6655

静岡市駿河区南町3-25 新星ビル2F

営業時間／17:00～24:00(日曜定休 祝日営業)

Ticket de Smile加盟店は静岡街中に57店舗！
ぜひご利用ください。



「辛い」より「旨い」！
本場韓国家庭料理を
リーズナブルに堪能

Ticket de Smileサービス

2名～3名様1グループ
500円割引

4名様以上1グループ
1,000円割引



【おすすめ】

韓唐韓人気メニュー上位3品

●元祖たこ鍋 1,500円

●ポッサム 1,230円

●豚チーズチヂミ 900円

まもなく
締切です。

第20回「静岡の名手たち」オーディション 申込締切／4月12日(日)必着

第10期「ピアニストのための
アンサンブル講座」(ピアノ伴奏法講座)

聴講生随時募集中!

申込締切／4月19日(日)必着

いずれも詳しくは各募集要項をご覧ください。

募集要項は静岡音楽館AOIのホームページからダウンロード
できるほか、7階受付カウンターでご用意しています。

AOI
コミュニケーション
ひろば
お客様の声

ハープを初めて生で聴きました。親子での演奏、素晴らしかったです。素敵な時間をありがとうございました。
(1/22 ランチタイム・コンサート 篠崎史子・篠崎和子 華麗なるハープの世界 ご来場者より)

ご来場、まことにありがとうございました。親子ならではの息のぴったりあった演奏で、ハープの美しい音色がホールに響き渡りました。おかげさまで大盛況に終わり、私どもも嬉しい限りでした。

静岡音楽館倶楽部会員の皆さまへ

お名前、ご連絡先、銀行口座等、ご登録内容に変更が生じた場合は、速やかに下記までご連絡ください。なお、平成27年度をもって退会をご希望のかたは、平成28年2月末までに、静岡音楽館倶楽部事務局へ退会届をご提出ください。ご提出のない場合は自動更新となりますので予めご了承ください。

静岡音楽館倶楽部 法人会員 (2015年2月末現在) 50名

- (株)アオイテレック
- (株)タミヤ
- (株)SBSプロモーション
- (株)戸田書店
- かわした歯科クリニック
- (有)丸吉事務機
- コカ・コーラ イーストジャパン(株)
- 三菱電機(株)静岡製作所
- (株)サンタモンコーポレーション
- (株)メディア・ミックス静岡
- 静岡ターミナルホテル(株)

コンサートシリーズ2015-16

主催 静岡音楽館AOI 指定管理者(公財)静岡市文化振興財団

特別協賛 静岡信用金庫

協賛 アイワ不動産 HARVEST HOMES

コカ・コーラ イーストジャパン株式会社

ホテルサンパリー静岡 ANSHINDO

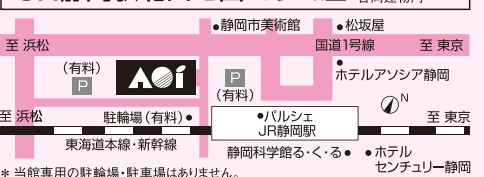
片瀬建設株式会社

次のことを予めご了承の上、チケットをお求めください。
皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

- * 価格は税込です。
- * 都合により内容を変更する場合があります。
- * お客様のご都合によるチケット代の返金、座席の変更は致しかねます。
- * 場内での飲食、写真撮影、録音、録画は固くお断りいたします。
- * 携帯電話、アラーム付時計等の使用はご注意ください。
- * 他のお客様の鑑賞の妨げとなる行為は固くお断りいたします。
- * 静岡音楽館AOIは、施設の構造上、会場準備が整わない状態(開場時間前)で、お客様を8階ホールへご案内することができないため、通常エレベーターは7階止になっております。開場時間になるまで1階エレベーター前か、7階ロビーでお待ちください(ただし、1階エレベーター前でお待ちいただいたお客様を優先してご案内いたします)。
- * 静岡音楽館AOIが主催するコンサート(一部を除く)では、未就学児は入場いただけません。

託児サービス(AOIの主催事業に限り)
要事前予約(1週間前まで)・託児料:1人¥1,000
すわん TEL.054-255-5377(9:00～21:00)
留守番電話の場合は、お名前・お電話番号を録音してください。

JR静岡駅北口を出てすぐ左



CONCERT HALL SHIZUOKA
静岡音楽館 AOI

月曜日休館(ただし祝日開館、翌日休館) 9:00～21:30開館
〒420-0851 静岡市葵区黒金町1番地の9

お問合せ

054-251-2200

AOI 検索